

短期集中予防サービスC 事業所説明



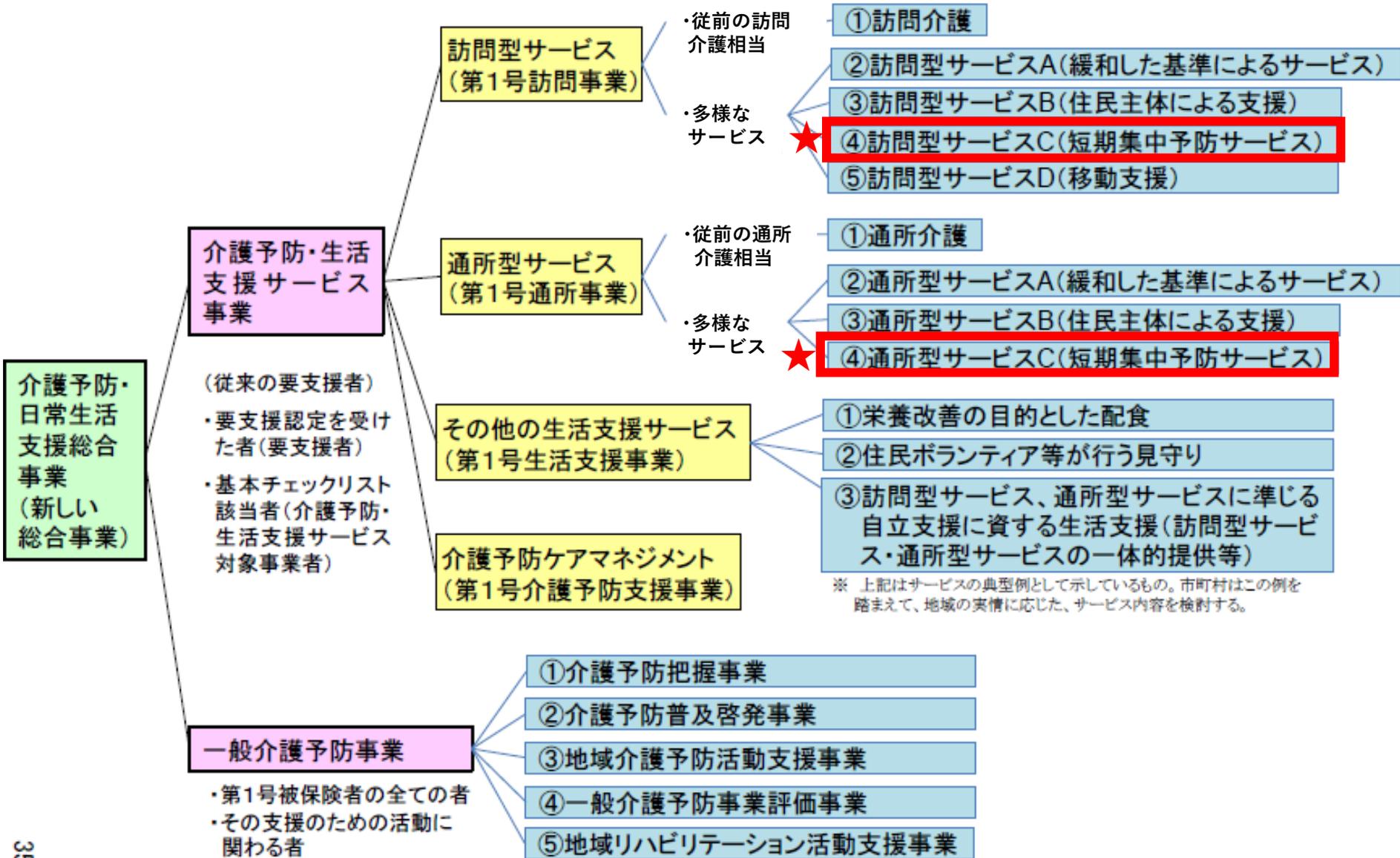
事業概要・実績・課題等について

令和元年度 3 月

宮古島市役所

高齢者支援課 介護予防係

介護予防・日常生活支援総合事業



短期集中予防サービスC 概要

- 保健・医療の専門職が実施
- 短期集中予防サービス(3ヶ月～6ヶ月の期間)
- 対象者自身が自覚を持ち、意欲的に取り組めるよう支援する
- 具体的目標を明確化
- 集団、個別を組み合わせて実施(通所型)
- サービス終了後の社会参加を視野に入れて実施することが求められる。

H31年(令和元年)度 短期集中型サービスC実績

【サービスC実績】 委託事業所名	H29年度		H30年度		H31年度	
	通所C	訪問C	通所C	訪問C	通所C	訪問C
うむやすみゃあす・ん	14	3			/	
下地診療所	8					
アルけるクラセーる			6			
宮古島リハビリ温泉病院	4					
宮古島徳洲会病院	2					
ドクターゴン				6		3
計	28	3	6	6		0

宮古島市における 短期集中予防サービスCの必要性

脳卒中を発症した場合の回復段階イメージ

■ 自立した生活が送れる状態

■ 介護や介助が必要な状態



宮古島市に
回復期病院が
ない！！

急性期

症状・徴候の発症が急激で、生命の危機状態にあるなど、全身管理を必要とする時期。救急病院や大学病院で治療を行います。

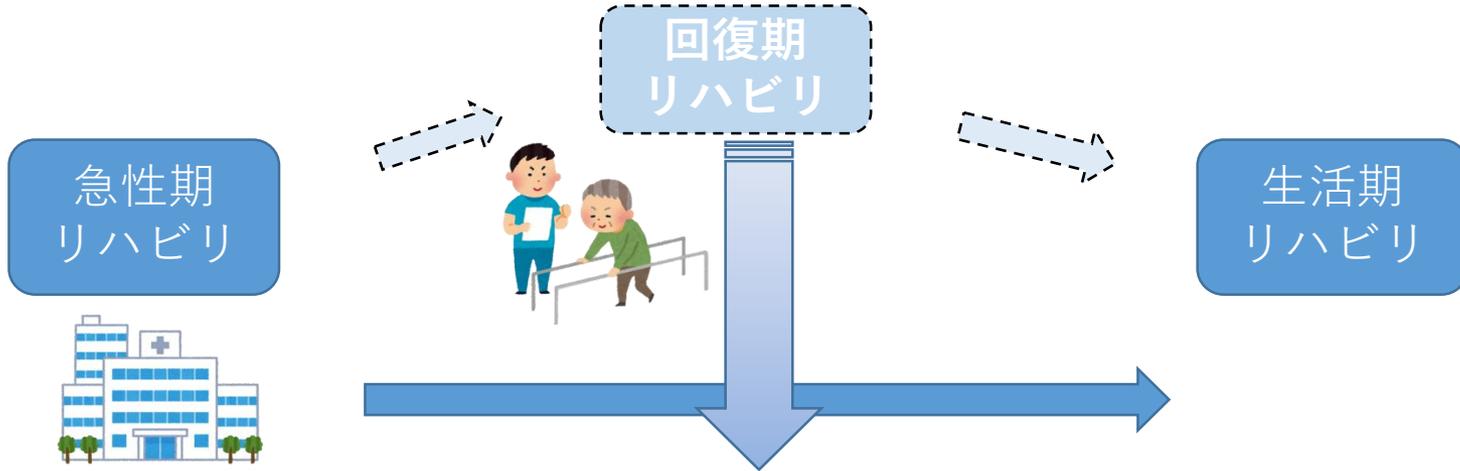
回復期

生命の危機状態から脱し、症状が安定に向かっている時期。回復能力が高いこの時期に集中的なリハビリを行うことで、より大きな成果を得ることが可能です。

維持期

機能障害の症状が安定し、家庭生活や社会生活を維持・継続している時期。健康管理や自立生活の支援、介護の負担を軽くするため、地域ごとに在宅や施設にしている様々なサービスが提供されます。

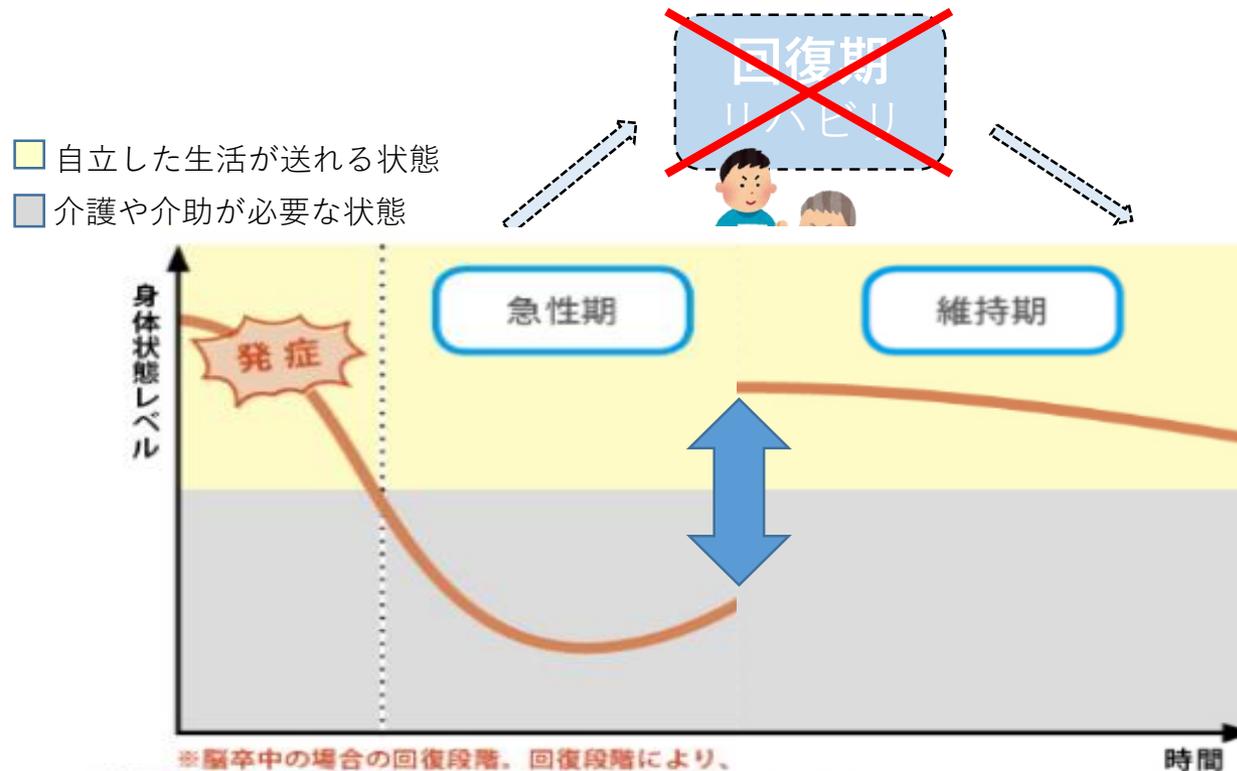
宮古島市における 短期集中予防サービスCの必要性



厚生労働省が定める回復期リハビリテーション病棟への入院の対象となる疾患と期間

疾患	発症から入院までの期間	病棟に入院できる期間
1	脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症又は手術後、義肢装着訓練を要する状態	150日
	高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷	130日
2	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折又は二肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	90日
3	外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後の状態	90日
4	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後の状態	60日
5	股関節又は膝関節の置換術後の状態	90日

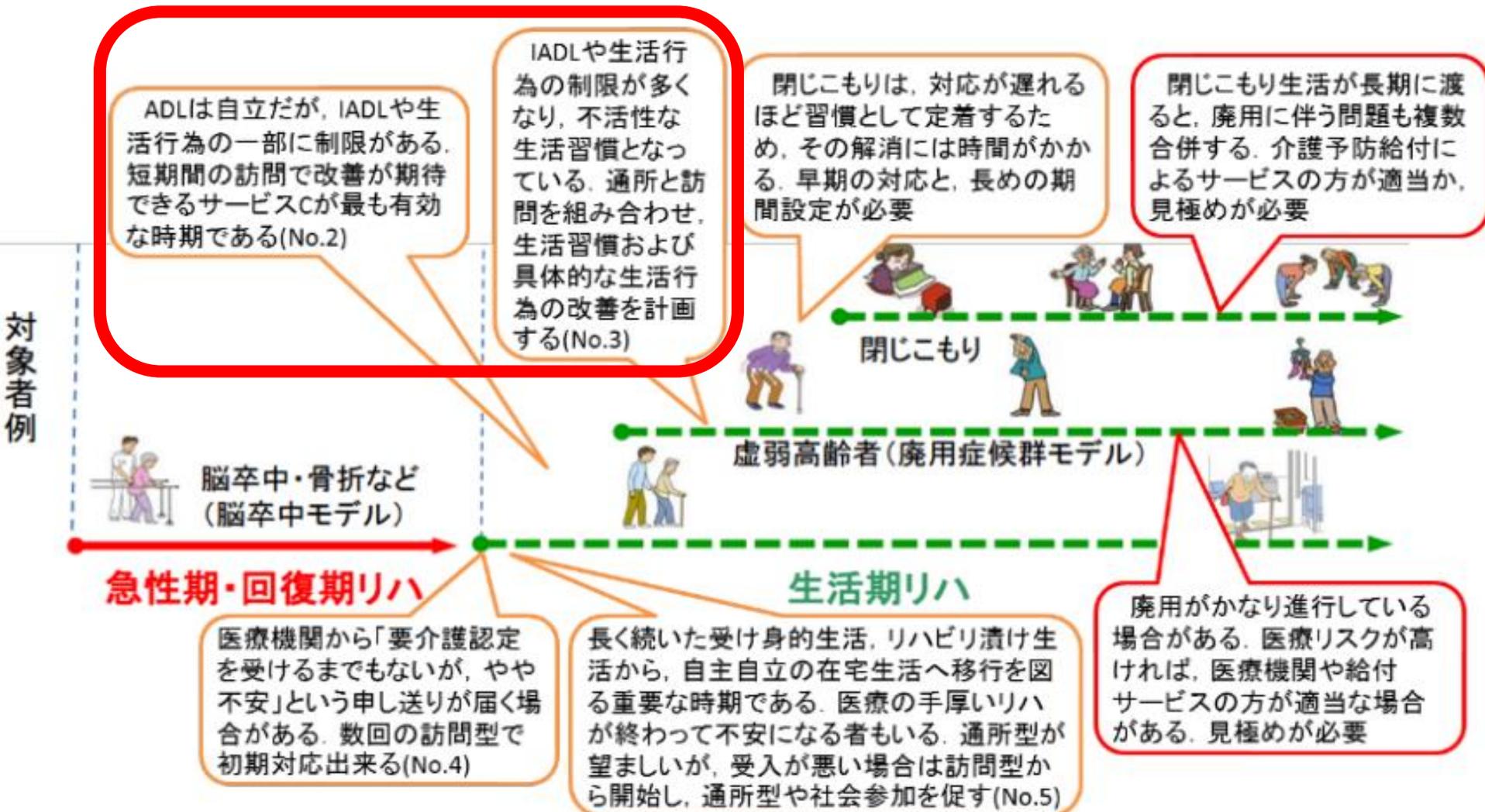
宮古島市における 短期集中予防サービスCの必要性



【医療制度の問題】

- ①回復期病院がないため、急性期病院から早期に自宅へ帰られる方が多い。
- ②急性期リハも在宅生活が気になるが、早期に次の受け入れ先にバトンタッチせざるを得ない。

宮古島市における短期集中予防サービスCの必要性



*吹き出し内のNo.は巻末付録事例のナンバーと対応

宮古島市における 短期集中予防サービスCの必要性

回復期リハがないままに退院後在宅生活を送り始めると…

〈本人〉

- 家にこんなに段差があるとは…
- 病院では気づかなかったけど、足の弱りを感じる
- お家に帰って布団から起き上がれなくて困った
- 台所に長く立てない
- 洗濯・掃除・調理・買い物も前と同じように出来ない。一人暮らしでどうしたらいいの…

〈家族〉

- 杖や歩行器があった方がいいと思うけど、どれがいいのか分からない
家族は必要と思っているけど、本人は使いたくないと言っているけど、また
転びそう…。
- 家で転ぶようになった。手すりを付ければ転ばなくなるかな。



そこで

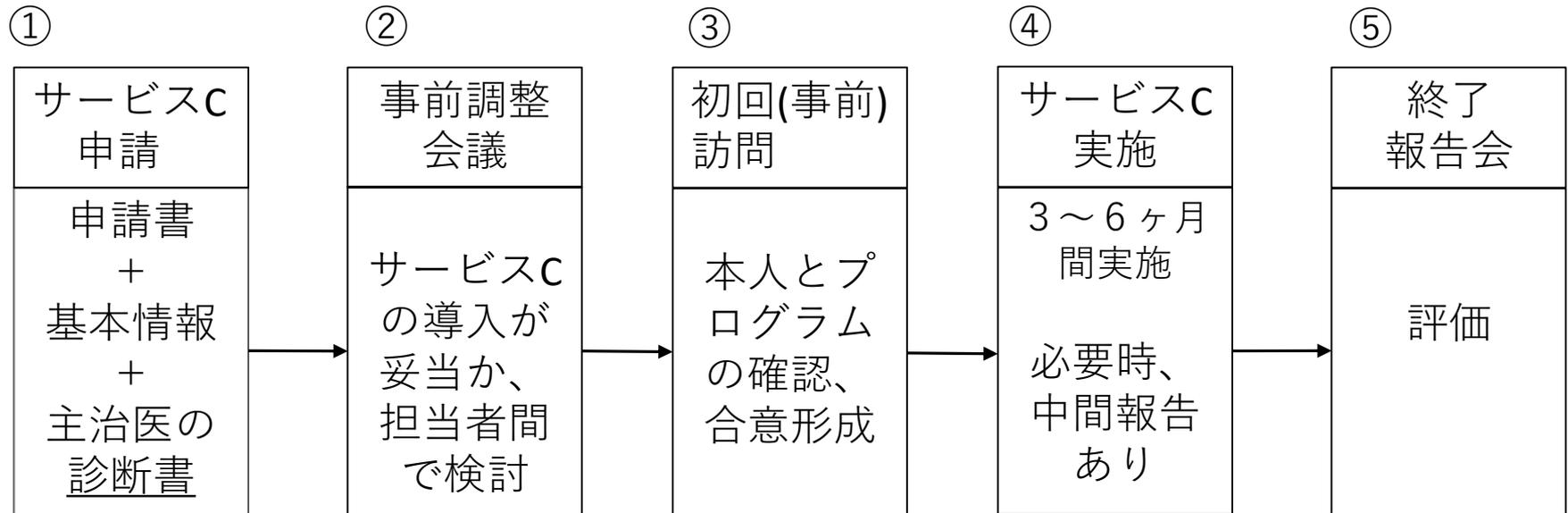
1. 一般介護予防事業 地域リハビリテーション活動支援事業専門職指導
2. 介護予防・生活支援サービス事業 **短期集中予防サービスC** 活用！！

地域リハビリテーション活動支援事業専門職指導例

疾患区分	専門職指導利用動機	介入時期 (発症・術後)
整形疾患	洗濯物を干そうとして転倒、両手指の骨折、入院無しで帰宅。	10日
	転倒にて右手首骨折	8日
	2ヶ月前に庭先で転倒、顔面負傷。足の弱りを感じている。	2ヶ月
	草履を履こうとして尻もちついた、左大転子部骨折から、2ヶ月弱。住宅改修にて専指	2ヶ月
	大転子骨折後4ヶ月後、腰部痛悪化	4ヶ月
	左大腿骨骨折術後4ヶ月、屋内での家事動作の確認	4ヶ月
	屋内転倒後2週間入院あった(骨折なし)。立ち上がり動作困難。疼痛増強	5ヶ月
	腰椎圧迫骨折から退院後半月、ベッドからの起居動作の指導	6ヶ月
	腰部脊柱管狭窄症2回目の術後、1年4ヶ月後。福祉用具の選定	1年4ヶ月
	大腿骨骨折後1年4ヶ月後、動きにくさあり、妻の入院で気落ちもあり、家で出来る体操を。	1年4ヶ月
脳卒中	脳梗塞発症後1年、デイでの下肢筋力向上・歩行強化のアドバイスを	1年
	脳梗塞後6ヶ月、膝痛有り、屋内の段差、動作確認	6ヶ月
	左被殻出血、高次機能障害あり。着替え・入浴動作の確認	9ヶ月
	右被殻出血、家事動作(洗濯干し、調理、掃除)の確認	7ヶ月
	脳出血発症後、半年。腰・膝痛があり、歩行時に引きずりながら歩行。椅子に腰かける時ドスンと座る。	6ヶ月

* 受傷後間もない時期や、回復期に当たる時期に専門職指導の利用があります。また、回復期に十分にリハビリができず、生活動作に困難感を抱いたまま生活を継続された方等の利用もみられます。

短期集中予防サービスC事業 実施の流れ



サービスCの注意事項

1. リハ専門職の訪問では、普段行っているようなリハ専門職の治療行為（リラクゼーション、運動療法等の直接身体技術を伴う行為、心理的介入）は行えません。
2. 生活行為の問題を特定し、短期集中で達成可能な目標を立案します。
 - 目標に生活行為の名前を含める
 - 目標に必要な機関を含める
 - 目標はひとつ
 - 利用者の言葉で書く以上の点に配慮した目標設定が重要です。

短期集中予防サービスC 課題

(1) サービス利用の手間

- ・ 主治医意見書の発行に時間がかかる
例) 1回/月の整形受診日にあわせて意見書を依頼しているため時間がかかる。
- ・ 意見書発行に際し自己負担金あり。
- ・ 事前調整会議や実施報告会の開催義務がある

(2) 対象者の抽出・選定が困難

- ・ 現在地域ケア会議での抽出が行われているが今後医療と介護の連携が課題。

(3) 受託事業所の確保困難

- ・ 通所に関しては島内全域からの利用者があるため送迎が負担となってしまった。